

第4回仁淀川シンポジウム

# 大交流会

仁淀川のこれからを、**今**、話そう。

レポート

## □日時・会場

日時：平成27年2月15日（日）午後1時から午後4時10分

会場：越知町民会館

## □主催団体等

主催：仁淀川清流保全推進協議会、高知県

共催：仁淀川流域交流会議

協賛：アサヒビール株式会社

## □テーマ「大交流会」

「仁淀川シンポジウム」は、流域で清流保全活動に取り組まれる方々の交流の場として平成23年度から始まりました。今回のシンポジウムでは、「大交流会」と題し、原点に立ち返って清流保全活動に取り組まれる方々や一般の方々と「交流」を深めました。

## はじめに

「仁淀川シンポジウム」は、流域で清流保全活動に取り組まれる方々の交流の場として平成23年度から始まりました。今年のシンポジウムは、原点に立ち返って清流保全活動に取り組まれる方々や一般の方々と「交流」を深めるよう、「大交流会」と題し、平成27年2月15日（日）に開催しました。

第1部では、アサヒビール株式会社高知支社の清流保全活動や高知県立高知青少年の家の親子川遊び教室の取り組み、パートナーシップ仁淀川分会の清掃活動や公益財団法人四万十川財団の取り組みなどご紹介いただきました。

また、初の試みとして、今年は第2部で、4つのテーマに分かれてワークショップを行いました。実際に清流保全活動をされている方々と一緒に「これからの仁淀川には何が必要で、自分たちに何ができるのか」を共に考えました。

このたび、シンポジウムにご参加いただけなかった方にも内容をお伝えするべく、概要をまとめた報告書を作成しました。皆様の今後の活動の一助となりましたら幸いです。

平成27年3月吉日

仁淀川清流保全推進協議会（事務局：高知県環境共生課）

## □プログラム . . . . .

### ①開会あいさつ

### ②第1部「活動紹介」

- ❖ 「愛する高知、愛する仁淀川のために！」～アサヒビール高知支社の取り組み～

アサヒビール株式会社高知支社 甘田 量一 支社長

- ❖ 「子どもたちを川へ呼び戻すために」 高知県立高知青少年の家 徳永 靖彦 所長

- ❖ 「水文化を継承するとは」 公益財団法人四万十川財団 神田 修 事務局長

- ❖ 「美しい景観を保全するために」 パートナーシップ仁淀川分会 大下 宗亮 座長

### ③第2部「ワークショップ」

- ❖ 子どもたちを川へ呼び戻す によど自然素材等活用研究会 井上 光夫 代表

- ❖ 水文化を継承する 公益財団法人四万十川財団 神田 修 事務局長

- ❖ 美しい景観を保全する パートナーシップ仁淀川分会 大下 宗亮 座長

- ❖ 豊かな水量を確保・維持する 高知県中央西林業事務所 荒尾 正剛 間伐担当チーフ

### ④ワークショップまとめ

### ⑤閉会あいさつ

## ✦ 第1部「活動紹介」



### ❖ 「愛する高知、愛する仁淀川のために！」～アサヒビール高知支社の取り組み～

アサヒビール株式会社高知支社 甘田 量一 支社長

私どもアサヒビールは、仁淀川環境保全の活動をさせていただいております。個人的なことですが、私、昨年9月に高知県へ異動してまいりました。初めて仁淀川を見たときに、「何てきれいな川なんだらう」と感動しました。その仁淀川環境保全に少しでもアサヒビールが携われることに非常に誇りを持っております。

まずは、アサヒビールの四国での取り組み「元気な四国へ！ さとあいプロジェクト」をご紹介します。

（さとあい…さ：讃岐（香川県）、と：土佐（高知県）、あ：阿波（徳島県）、い：伊予（愛媛県））

- ①「環境を元気に！」…「四国の水・森に、感謝。」キャンペーンの実施。
- ②「文化を元気に！」…「四国遍路を世界遺産へ！」キャンペーンの実施。
- ③「地域産業を元気に！」…地域のご当地グルメを応援。高知県は須崎市の鍋焼きラーメン。
- ④「人を元気に！」…「四国さとあいビアフェスタ」の開催。

では、高知県では、どのような地域共生活動をしているかということですが、5つほど挙げさせていただきました。

- ①「四国の水・森に、感謝。」…仁淀川流域の清流保全活動を支援。また、仁淀川流域の清掃活動への参加。
- ②「四国遍路を世界遺産へ！」…平成のしるべの石の設置を支援。
- ③工石山自然林の緑林のレクリエーションの森のサポーター活動。
- ④アサヒエコマイレージで社会貢献団体への支援。
- ⑤「高知家」を盛り上げるために、キャンペーンパックを発売。

最後に、今年も高知県のため、仁淀川のために精いっぱい、いろんな活動を通じて貢献をさせていただきたいなと思っております。





❖ 「子どもたちを川へ呼び戻す」

高知県立高知青少年の家 徳永 靖彦 所長

高知青少年の家はいの町天王にあり、すぐそばを仁淀川が流れております。この仁淀川をフィールドにして、私どもも取り組みたいということで、親子ガサガサ体験教室、そして、親子カニカニ観察教室を昨年度の7月より行っております。親子イベントというのは、大体4月から12月ごろまで、各1ヶ月ごとに陶芸教室をやったり、クリスマス会をやったり、いろいろやっておりますが、その中でこの仁淀川をフィールドとした自然体験教室を始めました。

教室名の「ガサガサ」というのは、やはり小さい子どもが対象ですので、「何かあるぞ」という子どもが喜びそうな名前を付けております。

さて、今年の親子ガサガサ体験教室は、5月24日（土）にいの町波川開催し、子ども20名（定員20名）、保護者17名に参加していただきました。私どものコンセプトとしましては、やはり親も一緒になってこういった行事へ参加するということが非常に大切と思っております。特に仁淀川といえば、最近は親もなかなか仁淀川で遊んだことがない世代となっておりますので、こういった取り組みがこれからますます必要になってくるのではないかと思っております。

内容としては、ガサガサと石をひっくり返したりして川虫を探して川虫ビンゴを行いました。みんなで捕ったものを観察するだけではなくて、こういったところにどんな生き物が住んでいるかということを知ることも非常に大事だということで、水生生物研究家の石川妙子先生のお話なども聞かせていただきながらやりました。

親子カニカニ体験教室の方ですが、こちらは5月31日（土）に仁淀川河口大橋のところで開催しました。高知大学の伊谷行先生にご協力いただきまして、チゴガニのダンスの観察、水辺の生物探しや見つけた生物をみんなで観察するというを行いました。

仁淀川をはじめ、川や自然との共生というのは、これからどうしても忘れてはいけないことだと思っております。高知青少年の家では、今後もこのような取り組みを通じて、親子の絆を深めていき、心豊かな自然愛を育てていきたいと思っております。



水文化を継承する

四万十川財団  
神田 修

四万十川財団って、なにしゆうが？

↓  
PRが大事

※PRの極意とは  
人の気持ちや行動を変えられたか  
商品と世間をつなげること

本田哲也氏(ブルーカレント・ジャパン代表)

## ❖ 「水文化を継承する」

公益財団法人四万十川財団 神田 修 事務局長

四万十川財団は、ミッションが2つあります。①四万十川の清流保全と②流域の振興。環境問題と経済の振興の両輪を上手に回しながら、「黒子として地域を支えなさい」という団体です。「黒子として」というのは、要するに地域の皆さんと自治体の皆さんが主役で、その皆さんの活動を支えることで四万十川を守りなさいということなのだと思います。

ところが、私自身が流域の皆さんとお話をしている一番出てくるのはこれなのです。「**四万十川財団って何しゆうが？**」地域の皆さんをつないだり、こういう場のセッティングをしたり、そういう裏方の作業がとても多いです。でも、流域を回って、流域の皆さんの力をお借りして清流を守っていく、その団体の活動がきちんと目に見えていないというのは問題なのではないかと思えます。「いいことだから分かってくれる」では、次の活動につながっていかない。

そこで、大事になってくるのがPR。活動内容とPRを50%・50%くらいで考えてやっていく必要があるんじゃないのかなと思います。

「PRの極意とは、商品と世間をつなげること」(本田哲也氏(ブルーカレント・ジャパン代表)) 当たり前のことだけど、特に私たちのような団体はそれができていない。ホームページやフェイスブックを作って「PRしてます」になってしまう。そうじゃなくて、私たちの活動を流域の皆さんに届けて初めてPRになる。その意味で、人の気持ちや行動をどれだけ変えられたかということをしっかり考えて、自分たちの活動をしていく必要があるのではないか、そう考えています。

「水文化を継承する」という意味で、私たち自身の反省として、自分たちの活動で誰にどうなってほしいのか、どうしてほしいのか、それをぜひ仁淀川の皆さんにも考えていただきたい。

四万十川ではグリーンツーリズム活動の推進として、「四万十川すみずみツーリズム」を行っています。そのすみずみツーリズムの事務局もしておりますが、目指すところは、もちろん訪れた人たちにその宿のリピーターになってほしい。なにより、四万十川のリピーターになってほしい。四万十川をつなぎたいというのが、1つの目的です。



### 目指すところ

◎ 訪れてくれた人が  
リピーターになってほしい

(その為の手段として)  
おもてなしのレベルアップ  
持続可能な経営

『四万十川流域の文化的景観』は2009年2月に国から文化財として選定されました。流域がまとめて文化的景観に指定されたのは全国で初で、いまだにただ一つです。



四万十川流域の文化的景観  
Cultural Landscape of the Yonaguni River Basin

### 目指すところ

◎(内に向けて)  
地域の価値の再認識  
→ 地域づくりの起爆剤に

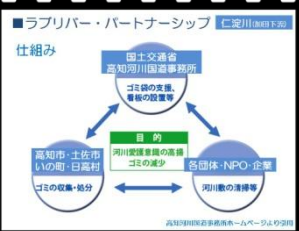
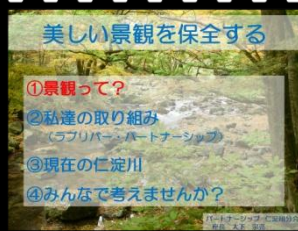
◎(外に向けて)  
新しい景観価値の提示  
→ 地域を応援する気持ち

### 自分たちの活動で

誰にどうなってほしいのか

誰にどうしてほしいのか

その結果、仁淀川とその流域が  
どうであればいいのか



❖ 「美しい景観を保全する」

パートナーシップ仁淀川分会 大下 宗亮 座長

①「景観って?」

景観 ≡ 風景、景色

└ 自然のもの (仁淀ブルー、水辺林・河畔林、瀬・淵、流れ、その他)

└ 人が関わったもの (文化 (紙のこいのぼりなど)、橋、堤防など)

景観を保全する? → 景観を駄目にするものは何か? → その1つが**ゴミ!**

②私達の取り組み (ラブリバー・パートナーシップ)

ラブリバー・パートナーシップ…**住民と行政**が一体となって**清掃美化活動**を行い、**河川環境の保全**を図るとともに、河川環境に対する**意識の高揚**を図ることを目的としております。

■ラブリバー・パートナーシップ 仁淀川分会 (現在: 14団体)

・ 場所を決めて清掃 (受け持ち区間) ・ 年3回以上 (一斉清掃含む) ・ 2年間の継続

③現在の仁淀川

不法投棄

└ レジャーに関するもの (釣り具 (竿、リール等)、ゴーグル、発砲スチロール、

└ バーベキュー後のホタテの殻など)

└ 仕事?に関するもの (肥料袋、鉢、ブロック、発砲スチロール

└ など)

└ ??? (原付、家電、空き缶、ビン、弁当箱 (発砲

スチロール)、ビニール袋など)

流れ着いたゴミ

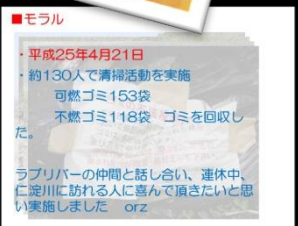
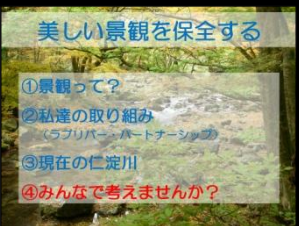
└ ペットボトル、ビニール、発砲スチロールなど

④みんなで考えませんか?

モラルの問題 ・ 移動するゴミの問題など、捨てる人・

捨てる側の話も含めて、ワークショップでみんなで

考えましょう。



## ✦ 第2部「ワークショップ」

### ❖ テーマ①「子どもたちを川へ呼び戻す」 によど自然素材等活用研究会 井上 光夫 代表



子どもたちを川へ呼び戻すためにはどうすればいいか？

- ・川のことを知ってもらう…ゆるキャラ・ロゴマークを作る
- ・安全性…実は川は危ないところもあるということも教えるべき
- ・川に子どもを近づける

…体験合宿、川での遊び方を教える、仁淀川をテーマパークにする、授業でカヌー、川の駅プロジェクト（物部川の取り組み例：PTAで安全な場所を指定して子どもたちとそこで遊ぶ）、「子どもの水辺」再発見プロジェクト（河川財団の取り組み活用：地域の団体、行政、教育委員会、学校等が連携して「子どもの水辺」の選定・登録し、必要に応じ整備を行う）

- ・情報提供の場…不要なライフジャケットの譲渡の情報など、川遊び関連の情報提供できる場を作る

### ❖ テーマ②「水文化を継承する」

公益財団法人四万十川財団 神田 修 事務局長



水文化を継承するために自分たちにできることは？

#### ①子どもの川遊び

- ・河川プール…川での泳ぎ方を学べる場。安全面に配慮した場。また、川遊びの危険な部分も学べる総合的な場。大人（先生方も含む）もフォローの仕方を学べる場。

⇒ まずは自分たちが川に行く。ここにいる大人たちが、もっと川に行く。子どもを連れて行く。

#### ②生活につながる川文化

- ・ワサビの栽培、川漁、お茶、水車、棚田、焼き畑、酒造りなど

⇒ まずは仁淀川のお茶を飲む。そして、その銘茶を育む仁淀川の名水を大事にしようという気持ちを育てる。

### ❖ テーマ③「美しい景観を保全する」

パートナーシップ仁淀川分会 大下 宗亮 座長



美しい景観を保全するために自分たちにできることは？

- ・「ゴミを捨てる」のは最後の手段。

⇒ ・まずは捨てないようにする、無くしていくというのが大前提。

- ・学校・企業・家庭で教育する。ゴミの実態や法律で規定されているゴミのポイ捨ての罰則など、ゴミについて知る。
- ・見回り、パトロール。監視カメラの設置。
- ・ゴミのイメージを変える。例えば、デポジット制。ゴミがお金に替わるシステムの導入。
- ・ゴミステーションの設置。ゴミの回収・分別が分かりやすくなれば、捨てにいきやすい。
- ・そもそも、川に人がいればなかなか捨てられない。まず川に行くような環境づくりから始める。

#### ❖テーマ④「豊かな水量を確保・維持する」

高知県中央西林業事務所 荒尾 正剛 間伐担当チーフ



豊かな水量を確保・維持するために自分たちにできることは？

- ・健全な森づくりとして、自伐を始める。
- ・職人の協力、支援を行う。
- ・不在村地主とキコリンジャーをつなぐシステムを構築する。
- ・竹の伐採チクリンジャープロジェクトで竹林整備を行う。
- ・耕作地の保全として、身近なところの山や畑を手に入れる。
- ・耕作地保全として、連組合を立ち上げて、耕作放棄地の解消に取り組んでいる。これを広めていく。
- ・探検教育的なところとして、高知森林救援隊の参加。
- ・雑木林・川に関心を持つ活動をする。
- ・流域の人たちに山や水の現況を知らせる。

#### ❖まとめ

仁淀川清流保全推進協議会 井上 光夫 副会長&司会

それぞれのテーマごとに「自分たちに何ができるか」をテーマに話し合っていました。それぞれがまた持ち帰って、今後の活動に活用していただければと思います。

また、これからの仁淀川清流保全推進協議会の在り方も皆さんの意見を聞きながら新しい形の会に進化して、実際に仁淀川に必要な会になればいいと思います。

#### ✦ 当日の様子

